



2025 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 日本電子株式会社
代表者名 代表取締役社長兼CEO 大井 泉
(コード番号:6951、東証プライム市場)
問合せ先 取締役兼執行役員 経営戦略室長 金山 俊彦
(TEL. 042-543-1111)

中期経営計画「Evolving Growth 2.0 - A New Horizon -」の策定について

当社グループは、2025年度～2029年度を対象とする新中期経営計画「Evolving Growth 2.0 - A New Horizon -」を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

【基本方針】

当社グループは、創造と開発をもとに科学の進歩と社会の発展に貢献するという創業時からの理念を糧に、これまで最先端の理科学・計測機器、産業機器そして医用機器の開発に邁進してきました。前中期経営計画「Evolving Growth Plan」(2022年度～2024年度)では、世界の科学技術を支えるニッチトップ企業を目指し、成長ビジョン「70年目の転進」に沿った施策を果敢に実行し、業績面でも大きな成長(Evolving Growth)を実現することができました。

世界では持続可能な社会の実現の機運が高まり、AIをはじめとした技術革新がますます進展する一方で、VUCA(Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)の時代と言われるように、情勢は目まぐるしく変転し、乱気流が常態化する複雑で予測困難な局面を迎えています。そのなかで当社グループの使命は、電子ビーム等のニッチなテクノロジーを軸に世界最高の技術に挑戦し、そしてそれを活用し、最先端領域の成長市場において機器の提供にとどまらず、お客様とともに社会課題の解決を実現することです。

2025年度よりスタートする新中期経営計画「Evolving Growth 2.0 -A New Horizon-」は2029年度を達成目標年度とし、従来取り組んでいる「YOKOGUSHI」戦略を深化させ、「YOKOGUSHI 2.0」として分野別のソリューション提供の基盤を更に強化します。特に高い市場成長性が見込まれ、かつ当社グループの持つニッチなテクノロジーが活用できる半導体・ライフサイエンスの分野を重点領域に設定し、この分野での成長を実現します。そして、製品ごとにマーケットへアプローチする方法を変え、マーケットが必要とする課題解決型のソリューションを創出し、最先端テクノロジーに挑戦するお客様の想像を超えるイノベーションを提供できるグローバルリーダーになることを目指します。

当社グループは更なる成長を目指せる「伸びしろ」がたくさんある会社です。その成長を確かなものにするためには、新しい視野(New Horizon)に立って変革し、成長(Evolving Growth)することが必要です。世界の科学技術を支えてきた当社グループが、独自のコア技術と市場ニーズを結合させ、これからも社会に役立つ会社として持続的に成長できるよう、「Evolving Growth 2.0 -A New Horizon-」で策定した戦略の実現と数値目標の達成を目指します。

【基本的な考え方】

1) 長期ビジョン『ビジョン 2035』の策定

「最先端テクノロジーに挑戦するお客様とイノベーションを共創する、グローバルリーダー*になる」を長期ビジョンとして掲げ、半導体、ライフサイエンス分野を重点領域として設定しました。最先端の成長市場において、私たちは機器提供のサプライヤーにとどまらず、ともに価値を創出し未来を切り拓くイノベーションカンパニーへと進化してまいります。

*「グローバルリーダー」とは、半導体やライフサイエンスなどの重点市場において、トップクラスのシェアを目指すことを意味します。

2) 『YOKOGUSHI 2.0』の設定

当社グループは、2013 年より掲げてきた『YOKOGUSHI』を、「Evolving Growth 2.0 -A New Horizon-」において、『YOKOGUSHI 2.0』に進化させ、3 軸での革新・拡張による付加価値の創出による分野別ソリューション提供の基盤強化に取り組んでまいります。

まず 1 つ目の軸は、『機器/機能』です。製品を有機的かつ横断的に組み合わせ、YOKOGUSHI を通すことにより、まだ誰も見たことのない次世代のソリューションやアプリケーションの開発を目指します。

2 つ目の軸は、『アプリケーション/サービス』です。これまでのハードウェアやソフトウェアの連結による多角的なデータ取得という価値向上に加えて、その解析を担うアプリケーション開発、さらにその解析結果をお客様が抱えている課題の解決につなげていく取り組みに踏み込んでまいります。

3 つの軸は『共創』です。自社内での「共創」を実現しながら、自社単独だけでなく、大学、研究所や企業とそれぞれの強みを持ち寄ることで、変化が著しい時代において、最適なソリューションを最速でお客様へ提供することに取り組めます。

『YOKOGUSHI 2.0』は、この 3 つの軸によってソリューションの価値の最大化を目指すものです。

3) 収益性の向上への取り組み

持続的な成長に向け、資本効率を重視した経営を促進し、コア事業の「稼ぐ力」を磨くとともに、強い事業基盤の構築を進めます。

- 高い市場成長性が見込まれ、かつ当社グループの持つニッチなテクノロジーが活用できる半導体・ライフサイエンスの分野を重点領域に設定し、この分野での成長を実現することにより、理科学・計測機器事業における収益性の向上を図ります。
- 高い技術力の共創による技術革新や新しいビジネスモデルの開発による競争力を強化し、イノベーション創出を通じて市場での位置を確立し、多様な社会課題への解決に貢献します。
- 地域戦略として、重点市場である海外(米国・欧州・アジア)において、重点領域である半導体およびライフサイエンス分野に係るサポート体制の強化や販促投資を進め、収益力の向上を図ります。

4) 投資・株主還元への取り組み

戦略的な投資による成長機会の追求と株主への還元を通じて、収益性の改善と株主満足度の向上を実現してまいります。

- 重点領域である半導体およびライフサイエンス分野においては、投資効率を重視した研究開発(R&D)投資の推進に加え、今後の更なる成長のための M&A 等も視野に入れた戦略的投資を実施します。さらに、生産力・生産性の向上を目的とした工場や設備リニューアルにも取り組み、企業価値の一層の向上を図ってまいります。
- 株主還元については、目標配当性向 30%を目安とし、資本効率の向上と企業価値の持続的な成長を実現するため、株主還元を強化するとともに、当面は成長に向けた戦略的な投資をより重視する方針としております。

5) “人・組織・社会”に力点を置いた持続可能な成長に向けた社会的責任の取り組み

- 企業の社会的責任を果たしつつ、顧客満足度の向上や従業員エンゲージメントの強化を図り、イノベーションの推進とガバナンスの強化を通じて、持続可能な成長を目指します。
- 次世代へつなぐゼロカーボンアクションにも、全社員が挑戦する姿勢で取り組んでまいります。

【数値目標】

2029年度の数値目標として、売上高2,250億円、営業利益450億円を掲げました。

	2029年度 目標	2024年度 実績対比	2024年度 実績	2025年度 業績予想
売上高	2,250億円	+283億円	1,967億円	1,810億円
営業利益 (売上高営業利益率)	450億円 (20.0%)	+95億円 (+1.9%)	355億円 (18.1%)	240億円 (13.3%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	338億円	+151億円	187億円	180億円
ROE	15%以上		14.3%	12.6%
ROIC *	15%以上		18.1%	11.4%
為替の前提	1 \$ =145円 1 € =157円		1 \$ =152円 1 € =164円	1 \$ =145円 1 € =157円

*社内管理基準に基づく

資本効率に関する数値目標としては、資本コストを上回るROEおよびROICの継続的な達成を図るとともに、中計最終年度には15%以上の水準を目指します。

当社グループは、「創造と開発」を基本とし、常に世界最高の技術に挑戦し、製品を通じて科学の進歩と社会の発展に貢献することを経営理念としております。新中期経営計画「Evolving Growth 2.0 - A New Horizon -」への取り組みにより、この経営理念とビジョンの具現化に向けて、持続可能性と資本効率の両立を重視した経営の推進を目指してまいります。

以上